

《クラリネットのための変奏曲(ハ長調)》(1809年)¹ 水谷 彰良

クラリネットのための変奏曲(ハ長調) *Variazioni per clarinetto*

作曲 1809年

初演 不明

編成 クラリネット (in Do)、管弦楽 (1フルート、2クラリネット、2ホルン、1ファゴット、弦楽5部)

演奏時間 約8分半

自筆楽譜 未発見または消失。重要な筆写譜がボローニャの市立音楽図書館に所蔵 (Bologna, Civico Museo Bibliografico Musicale, TT [Alunni] XXXXbis)。

初版楽譜 Leipzig, Breitkopf und Härtel, 1824. (parti staccato. 総譜初版は下記 *Quaderni Rossiniani*)

現行譜 *Quaderni Rossiniani VI*, Fondazione Rossini, Pesaro, 1957., pp.57-77.

全集版 未成立

構成 ハ長調、4/4拍子、アンダンテ〜3/4拍子、モデラート

解説

Gossett-2001²は題名を《*Variazioni a clarinetto*》、作曲を「1809年頃」としたが、WGR-1³の「*Variazioni per clarinetto*」[1809年]を採用した⁴(ラディチョッティは典拠を示さず1809年秋の作曲とする。前記 *Quaderni Rossiniani VI* は《*Variazioni per clarinetto e piccolo orchestra*》と題して出版)。自筆楽譜の存在は確認されず、典拠となる同時代の筆写譜(前記 TT XXXXbis)は《*Variazioni di Clarinetto o Oboè [sic] di Gioacchino Rossini*》のタイトルを持つ。

曲は序奏(ハ長調、4/4拍子、アンダンテ)、主題と変奏(ハ長調、3/4拍子、モデラート)からなり、序奏(全37小節)ではクラリネット独奏がゆったりとしたテンポの旋律を奏する。変奏の主題はそれぞれ反復を含む8+8小節からなり、主題を用いた8小節の管弦楽によるリトルネッロを伴う。変奏は三つで、第一変奏は主題を三連音符、第二変奏は主題を16分音符に置き換えてクラリネットの名技性を際立たせる。第三変奏は主題の短調への置き換えと長調の華麗な旋律を対比させ、そのまま終結部に至る。この終結部には後のオペラの音楽の片鱗も聴き取れ、ロッシェーニの真作と判断する根拠になっているようだ。

推薦ディスク：

- ・ Riccardo Chailly 指揮ボローニャ歌劇場管弦楽団 (1991年録音 Decca 433 701)



¹ 初出は『ロッシニアーナ』第33号所収「ロッシェーニ全作品事典(25) ロッシェーニの器楽曲①」。HP用の改訂版、2015年1月。

² *The New Grove Dictionary of Music & Musicians*, 2-ed., Macmillan, 2001. 所収のフィリップ・ゴセット (Philip Gossett) によるロッシェーニ作品目録

³ *Works of Gioacchino Rossini*, vol.1. Chamber Music without piano, Bärenreiter, 2007.

⁴ *Ibid.*, p.XIV.